

想いをつなぐ、たすきをつなぐ。



11月9日、熊谷市で行われた、「第87回埼玉県駅伝競走大会」(以後県大会)中学生女子の部で見事初優勝し、全国大会の切符を手にした、鶴ヶ島中学校駅伝女子チーム。昨年の県大会7位から初優勝までの飛躍に迫ります。



後列左から：田中伸一監督、佐藤咲希さん、古田陽梨さん、森田姫那さん、田倍康晴コーチ
前列左から：1区 小川璃子さん、2区 沖田梨花さん、3区 桑原由佳莉さん、4区 西村小夏さん、5区 大鐘心美さん ※県大会の走順(第28回関東中学校駅伝競走大会にて撮影)

苦難を乗り越えて

昨年、あと少しで関東大会の出場という悔しい思いをした、駅伝女子チーム。大会後、関東大会出場を目標に、毎日10キロ以上の練習を重ねました。

沖田さんは9月に軽度の貧血が続き、今までと同じように走れない日々が続きました。その中でも「ちゃんと練習をしないとまずいと思つて」自分なりに練習に参加。

「どんなに苦しい練習でも必ず彼女たちはやりきる。非常に頑張る子たちです」と誇らしげな田中監督。「絶対に関東大会に行く」その目標が彼女たちを強くしました。

大会で発揮された真の実力

大会当日、約50分の綿密なミーティングが行われ、誰が、何位で、何秒差で次につながるかを確認。田倍コーチの「絶対に1位でゴールできる」の言葉を胸に、全ての選手が予想タイムを上回る快走をみせました。

1区は12位で2区につなぎ、2区では前10人を抜き、2位に浮上。

3区桑原さんは1年生ながらも「私の役目はトップになることだ」と2位に6秒差をつけ、1位に躍り出ると、4区で2位を突き放し、5区ではそのまま1位でゴール。アンカーの大鐘さんは「まさか1位で自分に回ってくるとは思わなかった。ゴールテープを切ったときは最高だった」とうれしそうに話してくれました。

チーム力

駅伝はチーム全員が同じ目標に向かって取り組まなければなりません。小川さんは「このチームの一番の強みは明るさ。このチームでないとここまでやってこれなかった。つらい練習も全員で乗り越えてきたから優勝できた」と振り返ります。次は全国大会。主将の西村さんは「全員がベストを尽くし頑張りたいと思います」と熱い思いを話してくれました。

第27回全国中学校駅伝大会(12月15日開催)では9位でした。
おめでとうございます！

編集後記

今回の特集は、鶴ヶ島出身で海上保安庁特殊救難隊の佐藤卓也さん取材しました。普段の活動を見ることができない特救隊の日常に触れ、とても貴重な体験をさせていただきました。命をかける思いと、日頃からの厳しい訓練があるからこそ、日本の海が守られていることを実感しました。ご意見・ご感想は秘書広報課広報聴担当へ
☐10200001@city.tsurugashima.lg.jp



こいけつむぎ
小池紬生ちゃん(8か月)
“うつぶせを覚えたよ。元気に成長中!”



しまのみと
島野美都ちゃん(2歳7か月)
“毎日元気と笑顔いっぱい!”

笑顔の天使

